

新型コロナ ワクチン接種情報

3回目接種は、2回目接種より原則8か月経過した方(12歳以上18歳未満除く)が対象で、実施期間は令和3年12月1日～令和4年9月30日まで。当面は、ファイザー社製ワクチン使用となる。予約等詳細は市ホームページか、さいたま市コロナワクチンコールセンター ☎0120-201-178までお問い合わせください。



2回目接種完了時期	接種用クーポン券 発送時期
令和3年 6月1日～13日以前の方	発送済
6月14日～30日の方	令和4年1月11日
7月1日～7日の方	1月18日

※接種完了期間1週間ごとに毎週火曜日に郵送いたします。

子育て世代への臨時特別給付金の
現金一括支給について

当初は5万円現金、5万円クーポン券という国の方針で進めていたが、本市としては、児童手当等の受給者は年内に、高校生世代のみを養育する方は1月7日に一括現金給付となった。9月以降生まれの新生児は1月から申請受付になる。クーポン券となると、作成業者の選定、券の作成、検品、案内やクーポン券の送付作業など膨大な業務が、多忙となる年末年始にかかり、通常業務にも支障をきたす恐れがあった。また、大きな自治体は他市より作業に時間がかかり、市民の不満が起こるなどの可能性もあった。妥当な判断であったと考える。詳細は、市ホームページをご確認ください。



小柳よしふみの地域活動



サッカー少年団の支援
時には親子サッカーで汗を流します。



さいたま市政功労賞表彰
市議会議員勤続10年で表彰いただきました。皆さまの想いやお支えとともに活動しております。



ごみゼロ運動

市内一斉で行われたごみゼロ運動は、地域の絆づくりにつながっています。



歳末巡回活動

浦和区は火事に弱いので、自主防災会の巡回活動は重要です。



地域の防災訓練

防災士として講師役で参加しています。

ご意見・ご要望をお聞かせください

お名前 _____ TEL _____

ご住所 _____



「後援会イベントでハイ、チーズ！」

市政へのご要望・ご質問は

小柳よしふみ 事務所

〒330-0055 さいたま市浦和区東高砂町23-19-2F
TEL: 048-799-3232 FAX: 048-799-3233

E-mail info@koyanagi.jp
ホームページ http://koyanagi.jp/
ブログ http://ameblo.jp/y-koyanagi/



こやなぎ

小柳よしふみ

小柳よしふみ

検索

市政レポート
2022.1 vol.47小柳よしふみ 事務所 〒330-0055 さいたま市浦和区東高砂町23-19-2F TEL: 048-799-3232 FAX: 048-799-3233
E-mail info@koyanagi.jp ホームページ http://koyanagi.jp/ ブログ http://ameblo.jp/y-koyanagi/

浦和っ子

さいたま市の発展は、
市民の希望とともに！

～アフターコロナに向けた積極的な改革を～

皆さまにおかれましては、新たな気持ちで新年をお迎えのことと思います。一人ひとりが日常の幸せを実感できる2022年になりますよう、お祈りいたします。昨年末には、浦和レッズが天皇杯を制覇するという本当にうれしい出来事がありました。ドラマティックな試合に感動された方も多いのではないのでしょうか。

一方で、新型コロナウィルスの感染は、まだ予断を許さない状況です。ただ、感染者数は落ち着いており、できることはやっていく環境を作っていくべきであります。特に、子ども世代にとっての1年は本当に大きな1年となるため、大事にしてあげたいところです。また、アフターコロナ時代に向けた積極的な改革も重要な時期となります。

さて、昨年12月定例会において、市長より市役所の移転に関する条例の提出について言及されました。市役所はまちの顔であり、2000人を超える大企業でもあり、それがなくなることによる地域への影響は避けられません。このような歴史に残る大事業は、市民の期待や希望とともに進められるべきものです。つまり、庁舎移転後の浦和のまちの将来像や、移転が市全体の発展にどのように寄与するのかをしっかりと示していく必要があります。また、まちの発展のために議会がどう議論したのかも、しっかりと後世に残していく必要があります。市民の意見を伺いながら、議論をまだまだ深めていかなければなりません(関連記事:中面)。

昨年20歳を迎えたさいたま市が、大人の政令市としてきちんと歩めるよう、本年も頑張ってもらいます。小柳よしふみの活動にご期待いただきますよう、宜しくお願い申し上げます。

■昭和40年(1965年)8月27日生まれ A型

■浦和市立高砂小、岸中、県立浦和高、慶應義塾大商学部卒業。

■埼玉銀行を経て、警備会社を経営。平成23年よりさいたま市議会議員(浦和区)。

■平成27年(2期目)、平成31年(3期目)浦和区にて当選。

■まちづくり委員会(委員長)議会改革推進特別委員会



議会ごとに市政レポート発行(vol.46)市政報告会開催(41回)継続中！

TOPICS

浦和レッズ8度目の天皇杯制覇！

天皇杯JFA第101回全日本サッカー選手権大会決勝が12月19日に国立競技場で行われ、浦和レッズが2-1で大分に勝利し天皇杯を手にした。3大会ぶり8度目の栄冠となり、来期のアジア・チャンピオンズリーグ出場も決めた。号外も配布され、年内は浦和パルコと伊勢丹浦和店に優勝カップが飾られた。



市誕生20周年記念消防出初式は、WEB開催

新型コロナウイルス感染対策として、市公式YouTubeチャンネルでの動画配信となる。令和4年1月7日14時配信開始。普段見られない消防部隊訓練や木遣り流し、はしご乗りなど貴重な伝統文化をぜひご覧ください。

YouTube

さいたま市の人口133万人
浦和区は2番目

本市の人口は、1,332,257人(12月1日現在)で、前年同月比+8,262人となった。20政令市中では9番目。区別では、南区の192,384人が最大で、浦和区は167,741人で10区中2番目。

子育て世帯への10万円
臨時特別給付は現金一括で支給

国の方針が混乱したが、本市は一括現金給付となった。当初は5万円現金、5万円をクーポンという予定だったが、民主改革さいたま市議団会派としては、10万円一括現金給付の要望書を提出していた(関連記事:裏面)。



12月定例会より

12月定例会における議論は、医療検査体制の拡充や経済対策、子育て世帯などへの給付金の支給事業など、新型コロナウイルス感染症への対応の他、学校の35人学級への移行、DXの推進などが中心となった。

【補正予算(追加補正含む)の概要】

1) 新型コロナウイルス感染症への対応

- PCR検査の検査体制の継続(検査・医療体制の整備) 116,131千円
- 救急業務における感染対策用資器材等の配備(検査・医療体制の整備) 7,175千円
- 抗体力クテル療法の患者等の医療機関への移動支援(検査・医療体制の整備) 31,375千円
- 子育て世帯に対する対象児童1人につき10万円支給(市民生活の維持・下支え) 17,968,561千円
- 住民税非課税世帯に対する1世帯10万円支給(市民生活の維持・下支え) 14,846,575千円
- 市内宿泊施設の宿泊促進のための割引キャンペーン(経済活動回復のための消費喚起策) 165,053千円
- マイナンバーカード交付促進関連事業(アフターコロナ時代に向けたDXの推進) 82,527千円

2) 35人学級への対応

- 小学校3年生の35人学級実施のための教室改修、物品購入等 9,227千円
- 【債務負担行為】限度額97,650千円

※その他、ゾーン30対策設計業務、令和5年度さいたま国際芸術祭の実施計画・広報戦略の策定費など



35人学級への移行は今後4年間で進められるが、教室数の確保だけでなく教員の数と質の確保にも注力すべきである。また、住民税非課税世帯が144,000世帯あるという点は今後の福祉施策を検討するうえで留意すべき点であると考えます。

ゾーン30による田島・大牧線 工事に伴う安全対策について

田島・大牧線の工事の進行にあたり、浦和競馬場北門付近の交差点への信号設置の要望が出されている。地元説明会において、警察協議の結果では信号の間隔等の問題で設置が困難という説明があった。そうであるならば、地域住民が危惧している安全確保のために、前地1～3丁目、大谷場地域にゾーン30の設定により、まずは通り抜け車両の数と速度の抑制を図るべきと考えます。早急な検討を求めたい。

宿泊促進キャンペーンについて

2022年1月以降再開予定の国のGoToトラベルキャンペーンに合わせて実施される。市内約50施設で1室1泊につき、上限3000円の割引となる。宿泊対象の制限はなく、施設により割引額や宿泊数が設定される。宿泊施設による直売、宿泊予約サイト、旅行代理店による販売。詳細は、後日発表になる。こういった事業は、終了後にしっかりと効果検証ができるようなデータの蓄積、管理のうえで実施するべきと考えている。



まちづくり委員会委員長

まちづくり委員会より

隈研吾氏とともに

浦和駅周辺の まちづくりについて



魅力ある公園づくり プレイパークの 魅力と推進について



隈研吾氏を会長に迎えて、「都心魅力発信シンポジウム」が開催され、さいたま市の都心のまちづくりについて語られた後、(仮称)浦和駅周辺まちづくりビジョン有識者懇話会第2回会合が行われた。文教都市うらわの魅力を今後どのように展開、進化させていくのかを議論した。今回、ビジョンの骨子が発表となった。懇話会やシンポジウムの模様は動画配信されているので、ぜひご覧いただきたい。今後は、市民意見を積極的に伺い、最終案にまとめていくことになる。

プレイパークとは、冒険遊び場とも言われる。遊び方が、遊具や施設の形態で規定されていないため、遊び方の可能性が豊かで、子どもの空想や創造性、身体の運動性を刺激する。木登りや土を掘ったり、火が使える、廃材で遊具を自分たちで作ったりなど、自由な遊びができる。基本的に子どもの自由ながら、研修を受けたプレイリーダーが安全を見守り、遊びをサポート。市内数か所ある常設のプレイパークは、多くの参加者で人気となっている。市内では別所沼公園、子ども家庭総合センター(あいぱれっと)などで常設運営されている。公園部門だけでなく、子育て分野の取り組みとの連携が必要になるが、移動プレイパークなどの普及も含めて、推進するべきと考えます。



本庁舎移転問題

令和3年2月定例会で市長より、浦和からさいたま新都心への本庁舎移転の方針が表明されてから、何度となくこの問題について述べてきたが、改めて所感を述べたい。

●市長が移転の議案提出に言及

12月定例会の閉会挨拶で、市長より市役所の位置を移転する条例の提出について言及があった。閉会時の挨拶だけに議論の余地もなく、正直驚いている。少なくともまだその環境は整っていないと考える。

●移転議論における問題点

【問題点①】

まちの将来像が示されていない！

まず、移転元の浦和エリア、移転先のさいたま新都心のまちの将来像はどうなるのか、さいたま市全体の発展にどう繋げるのかが市民にしっかりと示されていない。今、浦和駅周辺まちづくりビジョンを作成している最中で、約2,000人が働く企業がなくなり、地域経済などへの影響も出る。移転だけが決められては、特に浦和の市民はまちの将来に不安を感じるだろう。庁舎の移転はまちづくりとセットで議論すべきと、私は予めより主張している。

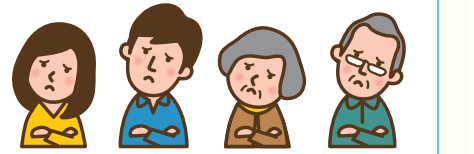
【問題点②】

アフターコロナ時代へ向けた検討がない

移転予定は2030年。新型コロナの感染がいまだ続く中、10年後のデジタル化の推進状況、市民生活、役所の必要規模などは不確定である。整備にかかるコストも変わってくる。本庁舎審議会より本庁舎の位置や規模などが示されているが、その検討、答申が出されたのはコロナ前。アフターコロナを見据えた再検討が必要と考える。

●他市の本庁舎の移転手続きはどうだったのか？

本庁舎の移転は、地域間対立につながるケースも多く、関係する地域への丁寧な対応が求められる。例えば、1991年に丸の内から新宿に移転してから今年で30周年となる東京都庁の場合は、旧都庁跡地に東京国際フォーラムの計画を進め、都庁の移転と同時に条例で決定している。昨年移転した横浜市は、本庁舎の基本計画が終わり、工事の請負契約締結、基本設計着手の直前に移転の条例を改正している。本市の場合は、まだ基本構想の段階。



【問題点③】

市民への説明不足

令和3年度は、新型コロナが猛威を振るい、地域のイベント、自治会活動など人が集まる機会が全く奪われた状況だった。市民同士の情報交換や、行政からの説明も限定的なものになってしまい、浦和区自治連からは、説明不足やまちの将来像を示すこと等の要望書が提出されており、市民の理解が進んでいない状況である。

【問題点④】

浦和区役所は現地に置くのか？

浦和区役所は、現庁舎地に残ることと示されている。既に多くの証明書や納税などもオンラインでの対応が可能な状況。今後はペーパーレス化、オンライン化が進み、区役所は相談業務が中心になる。規模を縮小し、より交通の便の良い駅近などに置く方が良いのではと考えられるが、そのような議論もまだされていない。

【問題点⑤】

議会での議論も不十分

議会でも賛否が分かれている状況。特別委員会の中間報告も両論併記となり、市議会の第1、第2会派内でも意見が割れている。何十年に一度あるかどうかの本庁舎の移転という大きな事業は、議会の議論の大勢がまとまってから決定していくのが良いと考える。

●浦和だ大宮だと言っている時代ではない！

新都心への移転は、審議会設置などの経緯、大規模災害時の国の拠点となることや市域全体での位置、現庁舎地での建て替えは敷地が狭く、行政業務や市民利用に影響が出ることなどの理由はある。

しかし、老朽化している県庁の現地建て替えも議会では明確にされず、上記のような問題点も残されている。全国で少子高齢化が進む中、都市間競争がますます激しくなる。ライバルは他の都市であり、もはや浦和だ大宮だと言っている時代ではない。特長が生かされたまちの将来像がしっかりと示されて、市民が将来に希望が持てるような丁寧な議論がまだ必要である。